2021 年度活動報告

事業の柱である「在日ミャンマー人定住相談支援」を前年に引き続き実施した。新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえた、緊急支援も行った。また、文化交流事業として、スタディツアー、ミャンマー語のレッスンや、ミャンマー人に対するオンラインの日本語レッスンを行った。

【組織運営】

①会員

2021 年度会員加入実績

正会員　33 人

賛助会員 19 人

うち 17 人が新規加入　　会員合計 52 人

【在日ミャンマー人定住支援事業】

① 2021 年度の相談支援実績（ 受益者 約 100 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ビザ関連	0	0	6	10	17	7	6	2	2	7	3	6	66
通訳・翻訳	5	6	2	6	6	4	3	0	0	6	7	5	50
税金相談	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5
進学相談	1	1	3	0	0	0	0	4	0	1	0	1	11
学校対応	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
労働関連	2	3	3	3	13	6	1	2	3	5	2	5	48
その他	13	21	18	12	20	15	26	18	11	26	27	37	244
月合計	21	31	34	31	56	33	37	28	17	45	39	54	426

※その他支援内容:

来日したばかりの配偶者の定住相談、携帯ショップ同行、緊急小口資金相談、不動産契約書署名のため日本語練習支援、アルバイト面接同行、飛行機チケット購入相談、電話契約変更支援、クレジットカード契約支援、ゴミ出し指導対応、就職相談、仕事探し相談、不動産契約支援、食糧支援

※相談者の分析

・性別　　男性約 63%、女性約 37%。

・年齢　　10 代～60 代

・民族　ラカイン人約 60%、ビルマ族約 30%、残り 10%はカチン族、モン族の順の多さで相談を受けた。ラカイン人が多いのは、当団体ミャンマー人理事がラカイン人であることが理由としてあげられる。また、日本人の方からも 3%の割合で相談を受けている。

② インターン育成（受益者 12 名）

大学生インターンが定住支援業務に従事することで、支援の方法を学び、知見を広げた。若い世代が多文化共生について触れる機会を作ることで、今後の日本国内の国際理解の一端を担った。

【文化交流事業】

① 文化交流イベント（受益者 約 5 万人）

金沢ラウンジフェスティバルのファッションショーに、4 名で参加した。金沢国際交流ラウンジのサイトで動画が見られるようになっている。

② 日本語オンラインレッスン（受益者 2 人）

ボランティアの方 4 名とインターン 5 名にご協力いただき、在日ミャンマー人に対して、日本語のレッスンをオンラインで年間 25 回程度実施した。2 人の在日ミャンマー人の日本語能力向上に貢献し、日本社会での外国人の円滑な生活を促した。

③ ミャンマー語レッスン（受益者 3 名）

母語としてのミャンマー語レッスンと、日本人に対するミャンマー語レッスンを行った。毎週一回、年間を通して行い、合計 53 回実施した。3 名の日本人に対して、ミャンマー語能力の向上およびミャンマーへの友好促進に貢献した。

④ 映画上映会（受益者 30 名）

在日ミャンマー人を描いたノンフィクション映画の上映会を実施した。参加者同士の意見交換や質疑応答も活発に行われ、多文化共生社会の実現に貢献した。

⑤ セミナー講師（受益者 計 50 名）

大和市の親子教室や他社主催のセミナーで、ミャンマー本国や在日ミャンマー人の現状、当会の活動について講演を行い、国際理解促進に貢献した。

⑥ スタディツアー（受益者 計 23 名）

SDGs に関するイベントや当会主催イベントとして、多文化共生ワークショップと多文化共生スタディツアーを実施した。在日ミャンマー人の実情や国際理解について、参加者同士でも活発に議論が展開され、多文化共生社会の実現に貢献した。

⑦ **その他**

研究者や情報機関に対する情報提供を不定期で実施した。アカデミックやジャーナリズムを通じたミャンマーや外国人労働者の理解向上に貢献した。TV や新聞などマスコミ関係者に情報提供を行った。

【国際協力事業】（受益者 ミャンマー本国のコーヒー生産者・マスク工場の工員 約 550 名）

クーデターや新型コロナウイルスの流行で疲弊したミャンマー本国の雇用を作り出すことを目的として、クラウドファンディングを実施した。300,000 円の目標に対して、488,700 円の暖かいご支援をいただいた。